

## 第7回小田原市高齢者福祉・介護保険事業推進委員会 会議概要

日 時	令和2年（2020年）11月12日（木） 午前9時30分から午前11時30分まで
場 所	おだわら総合医療福祉会館 4階ホール
出席委員	◎武井和夫委員、○木村秀昭委員、橋本健司委員、渡邊千括委員、露木昭彰委員、高山和子委員、関田智彦委員、村上弘行委員、岡本淳子委員、瀬戸昌子委員、吉田トシ子委員、関口清委員、脇本恭子委員、重松美智子委員 (◎：委員長、○：副委員長)
事務局	福祉健康部部長、福祉健康部副部長、福祉健康部ケアタウン担当副部長、高齢介護課長、高齢介護課介護給付・認定担当課長、高齢介護課副課長、高齢介護課地域包括支援係長、高齢介護課介護給付係長、高齢介護課介護認定係長、高齢介護課主事、保険課長、国民健康保険係長、健康づくり課長、成人保健係長
欠席者	川井悠司委員、市川初江委員
傍聴者	なし

### 1 おだわら高齢者福祉介護計画について

#### 協議事項（1）第8期おだわら高齢者福祉介護計画（素案）について

##### 事務局

（説明）

- ・資料1及び説明概要の補足説明。
- ・素案の今後のスケジュールについて説明。

##### 委員

（質問）

- ・生きがいふれあいセンターいそしぎで実施の65歳からの筋トレ教室について、マシン5台に対して今後参加人数が増えても募集を続けるのか。
- ・東京都、横浜市は高齢者向けの優待バスがあるが、小田原市としては市内を巡回するような優待バスを運行する考えはあるのか。

##### 事務局

（回答）

- ・高齢者筋力向上トレーニング事業は、新型コロナウイルス感染症の影響によって、令和2年3月から中止。7月20日から1日4クールだったものを、時間を短縮して人数を分散させ、1日6クールで再開をしている。事業者とは感染対策のために日頃から打ち合わせを行っている。高齢介護課職員が事業の当初申込者に参加意向の確認をしたところ、8割程度の参加希望があったため、今回の広報で追加募集をした。

## 委員

(質問)

- ・以前は好きな時に参加することができたが、新型コロナウイルス感染症の流行後は、曜日、時間を決めなければいけないため、都合がつかず行くことができない。実施会場を広くするなど工夫をし、以前のように自由参加のような形にすることはできないか。
- ・小田原スポーツ会館に設置されている古いマシンを、今後油圧式などの新しいマシンに入れ替えをする予定はあるか。

## 事務局

(回答)

- ・生きがいふれあいセンターいそしぎでの取組みについては、新型コロナウイルス感染対策のために、出席者を把握し名簿を整えている。感染拡大防止が大前提なので、協力依頼の通知を皆様に出しているのご理解をお願いしたい。
- ・小田原スポーツ会館の設備については、高齢介護課の管轄ではないため回答することは差し控える。
- ・東京都、横浜市は自治体が運営しているバス路線があるため、優待サービス提供が可能と思われるが、小田原市は市営バスがないため難しい。本市では、まちづくり交通課の施策として、橘地区ではバス路線の見直しの実証実験が行われており、また住民主体の活動として片浦地区において、住民が買い物の送迎のお手伝いをするなど地域の足の確保について取組みがある。移動の課題は、都市部、市民部と情報交換をしながら進めていきたいが、市内巡回バスの運営は考えていない。

## 委員長

(質問)

- ・高齢者の移動手段の問題に関連する記載があれば示してほしい。
- ・脇本委員からの発言について、今後は市としてどういう方向性でやっていくのか、マシンの数や設置場所等についてコロナ禍でどこまで進めることができるのか、現状維持なのかを示してほしい。

## 事務局

(回答)

- ・移動支援については、資料1、112ページ、113ページに福祉タクシー利用助成や地域主体の支え合いについて記載があり、合わせて民間サービスの情報提供を行っていく。
- ・64ページでは、移動支援を含めた「通いの場」づくりについて触れ、居場所で活動するための何か移動の手伝いをできたら良いと考えている。地域住民の移動支援全体となると高齢者福祉介護計画の枠を超えてしまうので、118ページの関連政策において「誰もが移動しやすい交通環境づくり」に触れている。

#### 委員長

(意見)

- ・移動支援について、既存の物を有効活用するだけではなく、もう一步踏み込んで検討することできないか。

#### 事務局

(回答)

- ・移動支援については、資料1、118 ページでも触れているが、市全体で検討していかなければならない課題だと考えている。
- ・高齢者筋力向上トレーニング事業に関しては、資料1、65 ページで基幹型と地域型に分けて記載しているが、基幹型は市の公共施設、地域型は高齢者筋力向上トレーニング事業に参加した方々が地域で独自に自主グループを立ち上げて市内 28 ヶ所程度で体操教室を設けており、高齢者の集う居場所のひとつになっている。市としては講師の派遣などの支援をしており、地域での活動や居場所づくりが大切だと考えている。

#### 委員長

(意見)

- ・今までは、縦割りで他課との連携することのハードルが高かったものを、変えていくという姿勢を示しており、その中で、説明にあった市の姿勢が文章に出ていないので未来的な説明や検討しているという表現が入ればより良いと思う。

#### 委員

(意見)

- ・高齢者筋力向上トレーニング事業に関しては、ハード面の影響から枠が決まっているのに募集するのはどういうことなのか。また、今まで使うことができたものが使えなくなる事に関してはどうするのか。機材、スペースが決まっている中で人を増やしていく計画で良いのかを説明し、その上での新型コロナウイルス感染症対策ではないか。今後、高齢者が増え、広報に力を入れれば更に人が集まってしまう。地域に流すのであれば、ゲートキーパーが必要。市が、市主催事業から自主グループにつなげる考えならば、その流れを地域住民に知らせた方が良いのではないか。
- ・交通機関に関しては、上位計画である総合計画の中で、地域交通の充実の項目があるので、他の計画等との整合性を確認して、検討している等記載ができればよいのではないか。

#### 事務局

(回答)

- ・次期総合計画の策定作業が始まるので、整合性を確認しながら、記載内容を整理していきたい。

## 委員

(意見)

- ・高齢者が運転免許証を返納し、足がなく困っている方が多いので、無料でなくてもよいので巡回バス運行の検討をしてほしい。
- ・高齢者の居場所づくりについて、豊川地区は支所が廃止になり、集まることのできる場所がなくなり、居場所がなくなっていく傾向にある。地域によって集まることのできる場所の数など格差があるので、市として把握をしてほしい。
- ・小田原市社会福祉協議会では、いきいき健康事業を11月5日に地域の役員の方、健康づくり課、地域包括支援センター職員の合計30名で開催をした。中北薬品株式会社の管理栄養士の方に依頼し、インフルエンザの克服、免疫力を高める食事、身体を温める食事、足肩すっきり健康体操、手洗の手順などの指導をしていただいた。新しい生活様式の普及と定着を図りつつ感染拡大防止に努めたいと考えている。

## 委員

(意見)

- ・開成町では、巡回バスが走っている。乗車している人がいなくても巡回しており、赤字になっていると思われる。ただ、足のない高齢者にとっては助かると思うので検討してほしい。

## 委員

(意見)

- ・高齢者筋力向上トレーニングを含めた住民を巻き込んで何かをやる事の全体として、市としてやるという基幹的なものと、地域で展開するものとの関係性は整理してやっっていないと回らない。基幹型で色々な事をやった人が、地域に行って地域の中の中心的な役割を担うような仕組みも意識して作らないと、自発性に任せるのは難しい。全体的に仕組みとしてバージョンアップした方が良い。基幹型と地域型の関係性、連動性を更に進めていくというような意味合いの記載を入れて頂きたい。

## 委員長

(意見)

- ・小田原市は観光の町なので駅周辺は観光の巡回バスや路線バスもあるが、小田原は人口のわりに面積が広いので小田原駅周辺と、そこから離れた片浦や橋などの地域とは状況が全く違う。人口密度が低い中で巡回バスは非常に成り立ちにくいと思う。市として検討してもなかなか話が進まない現状があると思うので、高齢者に対する福祉や介護の立場としても検討してもらわないと困るという事を上位計画につなげるためにも、記載が必要なのではないかと。高齢者目線では間違いなくあった方がよいので検討してほしい。

## 事務局

(報告)

- ・本日欠席の委員から人材確保についての具体的な提案のメール内容を紹介。
- ・若者層に対して介護に興味を持つような環境づくり、就労の機会を作るのはどうか。高校生を対象にした就職説明会、初任者研修、実務者研修など SNS の活用を視野に入れるのはどうか。
- ・アクティブシニアが就労するという目線で、ドライバー経験者の方に送迎担当職員として働くためにはというテーマの研修会を開くのはどうか。食事作りに特化したシニア層の就労支援など、シニアの方がたとえ短時間であっても活用できる場を仕事としてという気持ちを汲んだ支援になるのではないか。
- ・外国人人材の就労の機会づくりについて。情報発信だけでもよいので、国内人材だけでは足りない、外国の方も是非ということ伝える機会を作る必要があるのではないか。

## 委員長

(意見)

- ・人材確保については、資料1の視点1にもクローズアップされていることもあり、委員から出た意見を細かく計画に盛り込むかは、事務局としてはどう考えているのか。

## 事務局

(回答)

- ・細かく事業として計画に落とし込むことは難しいため、人材確保について検討する際に検討材料として利用していきたい。また、他課と連携して進めていく際に、何ができるのかというアイデアの一つとして利用したい。

## 委員長

(意見)

- ・資料1、48ページの視点1の「高齢者を支援する人材のすそ野を広げる」に若者や外国人、運転や調理ができる人が含まれているということだと思うが、具体的に記載するには、記載方法が難しいのではないか。

## 事務局

(回答)

- ・視点1「人材の確保と充実」に若者等の単語を入れると具体性が増すと思うので、入れる方向で検討したい。

#### 委員長

(意見)

- ・市独自の研修に次ぐところに、「ターゲットとして若者を意識する」、「個々の能力を生かした」等を入れると具体性が見えて良いのではないか。
- ・外国人についてどこに記載するかは上手く考えていただきたい。

#### 事務局

(補足説明)

- ・資料1、93ページの介護人材確保支援事業に若年層については、計画に落とし込みがされている。市としては小中学生にお年寄りへの接し方や介護の魅力を知ってもらおうという事で令和2年度に小中学生を対象とした介護の魅力発信という講座を事業化、予算化している。コロナ禍で未実施だが、年度末に向けて確実に実施していきたい。
- ・初任者研修については一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会がプログラムを用意しており、保健センターいそしぎを場所として提供し、受講する機会を設けている。
- ・外国人人材については、神奈川県の事業として、留学生を介護人材として受け入れる事業がある。受託しているのは公益社団法人横浜市福祉事業経営者会であり、担当者と連絡を取り合い、コロナ禍の中どのように市内の事業所に情報提供できるか検討している。

#### 委員長

(質問)

- ・県立高校が対象となっているとあったが、私立については対象になっているのか。

#### 事務局

(回答)

- ・市が実施している事業の対象になっている。

#### 委員

(意見)

- ・群馬県では、ICTを利用し福祉施設の車両の管理をすることによって、デイサービスの送迎時間以外も車両を有効利用しようという移動手段の確保について取り組んでいる。小田原市においては、災害時も含めて介護事業所との協定や連携を強めた上で、空いている車両をどう使うか検討をする必要がある。災害時に、車両をどのように使うか、介護施設をどのように開放するかということは大切なことなので、計画に入れるのが難しいと思うが、災害も踏まえて横の連携に入れてもらいたい。

**事務局**

(回答)

- ・災害については、資料1、114ページに「在宅要配慮者に対する災害時支援体制の構築」を記載しているので、この枠の中で検討したい。

**委員長**

(意見)

- ・社会福祉法人と限定するのではなく、社会福祉法人等に変更する必要があるのではないか。どこに盛り込むかは事務局で検討していただきたい。

**委員**

(質問)

- ・資料1、72ページ記載の「脳血管疾患予防プロジェクト事業」について、令和元年度実績の記載がないのは、実績が0ということか。

**事務局**

(回答)

- ・脳血管疾患予防プロジェクト事業で記載している脳血管疾患による死亡率については、年度ごとではなく年単位で実績がでるため、1年遅れで実績が出てくる。最新の実績は平成30年となる。高齢介護課と調整をし、注釈を追加する。

**委員**

(意見)

- ・特定健診の受診率が小田原市は全国平均に比べて低い。令和2年から頑張っている数字が並んでいるが、目標に掲げる以上は市民に対して啓発をしていかないと実績が見込に届かないと感じるため、しっかりと考えてほしい。

**委員長**

(意見)

- ・小田原市は神奈川県の中でも脳血管疾患で亡くなる方の死亡率が高く、何とか脱却するために、市と医師会、食品衛生協会など様々な所と協力しワースト5を脱却したが、平成30年度にまた1位になった。数字の見せ方は、他のものと比べて書くと誤解を与えるので注釈をつけるなど工夫をしてほしい。

**委員**

(意見)

- ・資料1、54ページに記載がある、基本理念、重点指針及び施策の体系の全体像を花の絵で表現しているのは見やすくてよいと感じた。47ページの「地域包括ケアシステムの姿」の図で文字が小さい箇所があるので、大きくした方が見やすいのではないか。
- ・移動支援について、要介護3以上の方、障害者手帳を持っている方にタクシーチケットが配布されているが、コロナ禍なので配布対象の幅を広げることができると良いのではないか。

**委員**

(意見)

- ・短期間の間に、資料内容が変更になり分かりやすくなっている。皆の意識が養分や水になり資料1、54ページの花になるのはこれからである。

**委員**

(質問)

- ・資料1、103ページ【今後の方策】に記載されている「情報共有のためのツール評価を行い、在宅医療・介護の連携の強化及び円滑化を図ります」のツールとは何か。

**事務局**

(回答)

- ・シートをFAXでやり取りするようなものである。例えば、ケアマネジャーが、かかりつけ医や事業所に対して本人の状態や変化を送り、今後の服薬や医療指導内容等を検討してケアマネジャーに戻すといったやり取りを行うものである。

**委員**

(意見)

- ・小・中学生への教育とあるが、学校現場としては、新型コロナウイルス感染症の影響から通常のカリキュラムを消化することで手一杯であり、何でも持ってこられてしまうのは困るので、慎重かつ丁寧に行っていただきたい。
- ・自宅で最期を看取ることを支援するというを進めていくのもよいのではないか。

**委員**

(質問)

- ・資料1、70ページ記載の特定健診の見込の数字は、目標値であると思うが、現実とかけ離れているのではないか。数字の積算方法について教えてもらいたい。



## 事務局

(回答)

- ・各自治体で特定健診診査、特定保健指導について、実施計画を策定しており、本市においては、平成 30 年度に第 2 期データヘルス計画に統一して策定している。その中で、特定健診の受診率についても記載をしており、策定時に現状評価をし、目標値を設定している。本計画に記載の数字は、データヘルス計画に基づいた数字になっている。

## 委員長

(意見)

- ・受診勧奨については、受診にきた人に健診を受けているかヒアリングをし、受けていない人には促すなど、三師会と協力をして進めていけるとよいのではないかと。

## 委員

(意見)

- ・資料 1、69 ページ記載に記載の、「特定健康診査や長寿健康診査の受診率向上のための取組を充実」について、健康づくりと介護予防の一体的な取組として、保健師の地区活動などが計画などで表に出ることは他市町にはないので、小田原市の活動には期待をする。
- ・感染症対策について、感染拡大を機会に取り組むというような記載だが、「感染対策を踏まえつつ」といったような、対策の重要性を伝えるような記載になるとよいのではないかと。

## 副委員長

(意見)

- ・移動支援について、地域に対して小田原福祉会から車両利用可能という申し出が来ているが、運営に関しては検討しているところである。
- ・災害時については、今年の台風 19 号の影響から市の関係課や学校関係と相談した結果、バリアフリー型風水害避難場所が三か所出来上がった。小さいペットについては、全ての小学校で受け入れ、大きいペットについてはダイナシティの駐車場で受け入れることになったなど少しずつではあるが前進してきているのではないかと。

## 委員

(意見)

- ・施設としては、災害時には施設を使ってもらいたいとは考えている。
- ・移動支援としては、施設が主体となるのではなく、地域が主体となり運営していただき、本業に影響がないように協力していきたい。

## 委員

(意見)

- ・移動支援については、施設の車両が空いている時間が少なからずあるので、車という資源は有効活用してもらいたい。担い手については、事業所がやらなければいけないのか、地域住民が主体となってやってくれるのかというところも詰めていかないといけないのではないか。
- ・資源はあるが、求められている場所が分からないといった際にどう繋げるのか。地域と行政機関が話し合っ、事業所にアプローチをしてもらえるのか、あるいは事業所側から地域にアプローチしなければならないのかといった方向性があると、事業所としては協力しやすいのではないか。

## 委員長

(意見)

- ・計画（第2案）に関して修正、追加するものは、移動支援について、高齢者筋力向上トレーニング事業における基幹型と地域型の関係性について、介護人材における若年層、地域の担い手について、災害関係について、感染症対策についての5点とする。事務局の作業スケジュールはどうか。

## 事務局

(意見)

- ・今後の日程の関係上、本日の意見を踏まえて修正・追加したものを委員長に確認させていただき、素案としてまとめさせていただきたい。

## 委員長

- ・承認について採決を求める。

## 全委員

- ・全員挙手。

## 2 地域包括支援センターの運営について

### 報告事項（1）令和2年度 職種別部会事業の取組状況（4～9月）

## 事務局

(説明)

- ・資料2に基づき、各部会担当職員から地域包括支援センター職種別部会事業の取組状況について説明。

## 委員長

(意見)

- ・各部会での活動に対する成果がまとまり、共有するという形で締めくくられているが、どの程度の範囲で共有をしていくのか。地域包括支援センターの中での共有なのか、地域包括支援センターと高齢介護課の中での共有なのか、明確ではないが、地域の専門職にも共有をお願いしたい。

### 3 その他

#### 事務局

- ・次回の会議は、令和3年2月4日（木）午前9時30分から、おだわら総合医療福祉会館 4階ホールを予定している。